

■ Mission

クリニカル・マインドとリサーチ・マインドを持つ医療者による質の高い研究を、ビッグデータを活用した研究などの振興と研究人材育成を通じて推進し、現在の医療が直面する諸課題の解決に貢献する

■ 主要な活動

1. 医療現場や政策に還元可能な臨床研究の振興
2. 臨床研究の成果を切磋琢磨する場の提供
3. 研究人材の育成
4. 各種ビッグ・データベース事業との連携(NDB, NCD, DPC など)
5. 関連各学会と連携した人材育成や共同研究
6. 医療系企業や行政機関との連携

■ 具体的な活動

1. 臨床研究の振興: 広範な臨床研究を対象とするが、特に下記の研究の振興
・医療現場で生まれる疑問や問題意識から発する research question に応える研究
・real world から得られるビッグ・データを活用した研究成果を、医療現場や政策に還元し「医療を変える」
2. 学術研究を切磋琢磨する場の提供
・年次学術大会、教育ワークショップ・優れた若手研究者の顕彰
3. 研究者人材育成の振興
・臨床疫学専門家制度の運営
・臨床疫学の系統的学習プログラムの認証
・データベースの取り扱いや倫理に関する学習プログラムの提供
・関連各学会との共催による教育ワークショップ

■ 組織 (50音順 敬称略)

- ・最高顧問: 井村 裕夫 黒川 清 横倉 義武
- ・顧問: 桐野 高明 永井 良三 堀田 知光 湊 長博
- ・理事: 川上 浩司 二宮 利治 濱口 杉大 福原 俊一 宮田 俊男 康永 秀生
- ・理事長補佐: 山崎 大

■ 会員のメリット

- 1) 年次学術大会に会員価格で参加できる。
- 2) ワークショップなどに、非会員より早い時期に参加登録が可能。
- 3) 医療者会員と特別会員は専門家試験を受けることができる。
- 4) 学会ホームページの会員用ページでレクチャー動画を視聴できる。

■ 会員の種類

1. 医療者会員: 医療経験5年以上の医療者* (企業所属は除く)
*医療に関わる公的資格を有する医療者。
2. 一般会員: 医療経験5年未満の医療者、および医療者以外の関係者 (企業所属は除く)
3. 企業会員: 企業に所属する個人
4. 賛助会員: 企業、財団などの法人。1口につき10名が、会員価格で学術大会に参加可能。所属組織から優れたものを特別会員候補として1年に1名、理事会に推薦できる
5. 特別会員: 医療者以外あるいは医療経験5年未満の医療者で臨床疫学研究の経験が5年以上あり、卓越した研究者を理事会で推薦する。特別会員の要件として、一般会員、企業会員として3年以上、本会に所属していること。
6. 学生会員: 大学の学部、大学の学士の学位を取得する課程、短期大学及び高等専門学校、並びに専修学校及び各種学校の生徒 (医師や企業所属は除く)

■ 年会費

- ・医療者会員 10,000 円
- ・一般会員 6,000 円
- ・企業会員 30,000 円
- ・賛助会員 一口 200,000 円 (一口10名まで会員価格で年次学術大会に参加可能)
- ・特別会員 10,000 円
- ・学生会員 2,000 円

*事業年度は、毎年2月1日に始まり1月31日に終わる。前年の12月20日までに年会費を納めるものとする。



<http://www.clinicalepi.org/>



Society for Clinical Epidemiology

日本臨床疫学会

担当事務局: 〒162-0833 東京都新宿区筆筒町43 新神楽坂ビル2階
有限会社ビジョンブリッジ内
mail: office@clinicalepi.org
TEL. 03-5946-8577 FAX. 03-5229-6889 (代)



Society for
Clinical
Epidemiology

一般社団法人

日本臨床疫学会

代表理事ご挨拶

日本臨床疫学会は、クリニカルマインドとリサーチマインドを有する医療者*のための学会です。(※医療産業の方々も、医療に貢献しているという意味で医療者に含めています)

臨床疫学は、医療者が診療現場において想起する診断・治療・病態に関する未解決かつ切実なリサーチ・クエスチョンに科学的に答えるための学問といえます。臨床疫学の大家の一人、David Sackett氏は、臨床疫学をBasic Science for Clinical Medicineと位置付けました。

世界の臨床疫学の歴史は約60年と比較的短いですが、その起源は約300年前のスコットランド医学、約130年前のオスラー医学に遡ることができます。一方で、日本の臨床疫学は約30年と短く、医療者が本当にやりたい研究ができるようになったのは最近10年間ぐらいに過ぎません。

臨床疫学は簡単ではありませんが、多忙な医療者に、考え、悩み、創造する自分だけの自由な時間と空間を提供します。そして医療者を元気にします。日本臨床疫学会は、そんな元気な医療者に、日ごろの研究活動の成果を持ち寄り切磋琢磨する場を提供します。また、最新の知見を学ぶ資源や、出会い・交流の場も共有します。

独立した研究者になるためには、長い時間と試行錯誤の反復を要します。その辛く、しかし楽しい旅路を進む医療者の皆様と、日本臨床疫学会と一緒に歩きたいと思います。



一般社団法人 日本臨床疫学会
代表理事 福原 俊一

臨床疫学専門家制度

臨床疫学専門家は、当学会が優れた臨床疫学研究者であると認定した会員に与える称号です。「認定専門家」および「上席専門家」、「卓越専門家」から構成されています。

■ 専門家のメリット

1) 一般演題セッションで口演発表ができる

口演発表は、原則として臨床疫学専門家のみができます。(ポスターはどなたでも発表可)

2) YIA (Young Investigator Award) の候補になれる

毎年の年次学術大会(年次大会)の一般演題セッションで最も優れた口演発表に対して与えられる賞が最優秀賞 (Young Investigator Award: YIA) です。厳正な第一次選考で残った最終候補は、年次学術大会最終日の発表会でプレゼンテーションをし、YIA受賞者一名が最終選考されます。いずれの選考においても共著者及び同じ所属の者は審査員にならないなど、厳正なプロセスで審査が行われます。

3) 年次大会の教育セッション(公募枠)に企画提案できる

年次大会は、会員や参加者が研究方法などを学べる貴重な機会でもあり、当学会では講義、実習、ワークショップなど多彩な教育セッションを提供してきました。その中に会員から企画を公募でできる枠を設け、その枠に専門家が自身の企画を応募できます。

4) RWD賞 (Real World Data賞) に申請できる

大規模な医療データベースを用いた臨床研究を実施したいという若手医療者からのニーズが年々高まる一方で、大規模データへのアクセスは困難な状況です。そこで、当学会は、リアルワールドデータ株式会社(以下RWD社)からのご支援を受け、RWD臨床研究助成賞を設置しました。受賞者には、RWD社が有する全国の電子カルテ由来診療情報データが提供され研究費が助成されます。研究助成事業の一環として設置されたこの賞により、当学会の会員が貴重な大規模医療データベースを用いて優れた臨床研究を実施・可視化し、世界に発信することが期待されます。希望者は、自分のリサーチ・クエストとこれに答えるために必要なデータ項目を記載して申請します。申請内容は当学会の審査委員会により厳正な審査を受け、採否を決めます。

■ 専門家申請・更新要件*

専門家になる、および更新のための要件は以下のとおりです。

1) 臨床疫学認定専門家: 臨床疫学会に1年以上在籍しており、当学会の医療者会員あるいは特別会員で、所定の要件*を満たした上で、専門家試験に合格した者。5年毎の更新が必要。

2) 臨床疫学上席専門家: 認定専門家を取得後3年以上経過し、所定の要件*を満たした者。5年毎の更新が必要。

3) 臨床疫学卓越専門家: 上席専門家のうち、臨床疫学に著しい貢献をした者。当学会を退会するまで、資格を保有。

*所定の要件は、当学会のホームページで公開中。

専門家制度委員会 担当理事 二宮 利治 (九州大学) 委員長 竹島 太郎 (埼玉県立大学)



日本臨床疫学会
公式学会誌

■ 【Annals of Clinical Epidemiology (ACE)】とは？

日本臨床疫学会の公式学会誌として、Annals of Clinical Epidemiology (ACE) が2019年4月1日に創刊されました。

「クリニカル・マインドとリサーチ・マインドを持つ医療者による質の高い研究を、ビッグデータを活用した研究などの振興と研究者人材育成を通じて推進し、現在の医療が直面する諸課題の解決に貢献する」という本会のミッションに合致するハイレベルな研究成果を掲載しております。

また、2020年4月1日には、プラットフォームを学会ホームページから、J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) に移行しました。J-STAGE に移行後、ACEもオープンアクセス化され、本会会員のみならず、非会員の皆様にも閲覧いただけるようになりました。引き続き臨床の分野を問わず、医療者の皆様からの多様な論文投稿を受け付けて参りますので、多数の論文投稿を心よりお待ちしております。本会会員のみならず、非会員からの投稿も歓迎いたします。掲載論文は、本会ホームページの会員専用ページから閲覧可能です。

ACE編集委員会 担当理事兼委員長 康永 秀生 (東京大学)



■ 優秀論文賞

日本臨床疫学会は、2022年度から、若手研究者による優れた論文を選考し、筆頭著者に優秀論文賞を授与することといたしました。「ACE部門」と「一般部門」との二部門で1編ずつ選考します。一般部門は公募です。

■ 2022年度 優秀論文賞受賞者のコメント

■ ACE 部門

平塚 義宗 (順天堂大学)



日本臨床疫学会のACE部門優秀論文賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。本論文は、先進国で最も多く行われている手術である白内障手術の超高齢者(90歳以上)におけるADL改善について検討したものです。DPCデータを使用したMatched-pair cohort studyで、90歳前には手術を受けた方が良いという結果を示すことができました。膨大なデータの解析を手伝ってくださった道端伸明先生に感謝申し上げます。

■ 一般部門

吉年 俊文 (トロント小児病院)



この度は栄誉ある「優秀論文賞(一般部門)」を受賞し、身に余る光栄であり御礼申し上げます。本論文は、シンシナティ小児病院留学中に報告した小児の非アルコール性脂肪肝疾患に関する米国の多施設共同研究です。現在私はトロント小児病院で臨床消化器肝臓フェローとして3年間小児診療に従事しながら研究に携わる機会を得ました。引き続き、消化器肝臓疾患に関する臨床研究を行い、将来の子どもたちに還元したいと考えています。

YIA 年次学術大会 最優秀賞

■ Young Investigator Award について

日本臨床疫学会 年次学術大会プログラム委員会で採択された演題から、筆頭演者が今年度の4月1日に45歳以下の演題において、専門家部門(認定専門家以上)と非専門家部門でそれぞれ優秀賞が選出されます。専門家部門で優秀賞に選出された演題は、YIA (Young Investigator Award : 最優秀賞) 候補演題として年次学術大会のYIAセッションで発表頂きます。YIAは、専門家部門の優秀賞受賞者の中から選ばれた最優秀賞受賞者1名のみ に授与されます。

歴代の YIA 受賞者

2017年 第1回 年次学術大会 福間 真悟 (京都大学)
2018年 第2回 年次学術大会 台風のため開催中止
2019年 第3回 年次学術大会 柴田 舞欧 (九州大学大学院)
2020年 コロナ禍により開催されず
2021年 第4回 年次学術大会 山崎 大 (京都大学)

■ 受賞者の声

第1回 福間 真悟 (京都大学)
未来志向メンタリング付きYIA



2017年に「慢性腎臓病診療の質と末期腎不全の関連」でYIAを受賞させて頂きました。多くの方のアドバイスを基に可視化できた研究成果を学術大会の大きな会場で発表し、良い評価をいただいた事は研究者として大きな励みになりました。臨床疫学会は、参加者の多くが、大学や領域の枠を超えて建設的な議論を行い、日本発の臨床疫学研究のレベルを上げる貴重な場所だと感じています。YIAのプレゼン時には、各領域の専門家の先生方から次の研究に繋がるヒントを多く頂きました。YIAは過去の研究成果を表彰するだけでなく、これからの研究に対するメンタリングを受けられる場所だと感じました。これからYIA受賞を目指す後輩たちに還元ができるように、自分を鍛えて臨床疫学研究を発信していきたいと思えます。

JGIM Editorial Fellowship

JGIM (Journal of General Internal Medicine) は、米国の総合内科学会 (SGIM) の学会誌です。約40年の歴史を有する総合内科のトップジャーナルの一つでもあります。この雑誌の編集委員会は、将来の雑誌編集を担うリーダーを育成するためのEditorial Fellowshipを開始しました。このfellowshipは、世界のトップジャーナルの編集長らによる定期的な講義、実際の編集作業を雑誌の編集委員のとともに働くオンザジョブトレーニング、定期的なメンタリング、などで構成されています。ご縁があつて、2022年より当学会からフェロー候補を推薦できることとなりました。

生涯教育委員会 担当理事兼委員長 福原 俊一 (京都大学)

第3回 柴田 舞欧 (九州大学大学院)



YIAを受賞して

大変栄誉ある日本臨床疫学会のYIAに選出いただきまして誠にありがとうございました。私は2010年より久山町で心理社会的因子についての疫学調査を開始し、一人一人に直接接する形での地道な研究を続けてきました。孤独感と認知症発症のテーマでYIAを受賞させていただいた2019年はちょうど節目である10年目にあたり、ようやく追跡研究ができるくらいにデータが蓄積した頃でした。ともに苦勞してきた研究室の仲間への感謝と一つの成果を実感できる良い機会となりました。その後は、九州大学の衛生・公衆衛生学分野の助教に採用され、JPSC-AD研究の中央事務局長として認知症の全国調査をサポートするとともに、久山町での高齢者調査をマネージメントしています。昨今は個人情報保護法や倫理指針の改訂もあり悉皆調査の難しさを感じておりますが、60年間で築き上げられた地域住民との信頼関係に支えられています。これからも研究成果の地域住民への還元と論文化を通じて世界各地の医師から地域医療へ還元されていくことを目指して、継続して参りたいと思っています。

第4回 山崎 大 (京都大学)



自分がどんな研究者なのかを教えてくれたYIA

私は脂肪肝や脂肪腫といった臓器の脂肪蓄積と糖尿病について、卒後5年目から約10年間研究してきました。しかし、意外なこともかもしれませんが、YIAを受賞するまで、自分が何の研究者なのかわからずいました。それはこれまでの研究の軌跡を振り返る機会がなかったからです。「非肥満者における脂肪腫と糖尿病の関連」でYIA候補となったとき、メンターの一人が発表練習を何度も聞いてくださり、「自分が行ってきた研究の物語を話すように」というアドバイスを頂きました。自分の研究の物語を話すため、これまでに行ってきた7つの脂肪関連研究を振り返り、初めて自分が「脂肪の適正分布により、非肥満者の生活習慣病予防を実現しようとする研究者」だと自覚できました。厳正な審査を受けてYIAを受賞できたことで、研究の方向性がさらに明確化しました。そして現在は様々な臓器の脂肪分布を研究し、国際共同研究を米国糖尿病学会誌Diabetesに掲載できるまでに研究が発展しました。YIA受賞はこれまでの10年を振り返る機会と、これからの10年を歩むための道標を与えてくれました。

■ 初代フェローの声

高田 俊彦 (福島県立医科大学)



このたびは初代のフェローに選んでいただき、感謝しております。この機会を最大限生かして、学ばせていただきたいと思えます。フェローは、投稿された論文のスクリーニング、reviewerの選定、採否の決定までの全プロセスをeditor-in-chiefと共に進めます。authorの立場からは知ることの出来ない、論文投稿の舞台裏を知ることができます。また、オンライン学習プログラムを通じて査読のいろはについて学んだ後、名だたるeditorたちの指導のもとJGIMに投稿された論文の査読を実際に担当します。他の研究者の論文を査読する経験は、自身の研究の質を高めることにも役立ちます。更に、JGIMには多様な専門分野を持った約100名のeditorがおり、自身の関心分野における世界の一流研究者とつながりを築く機会が広く開かれています。この貴重な体験を通じて学んだことを、日本の臨床研究の発展に還元できるよう努めたいと考えております。